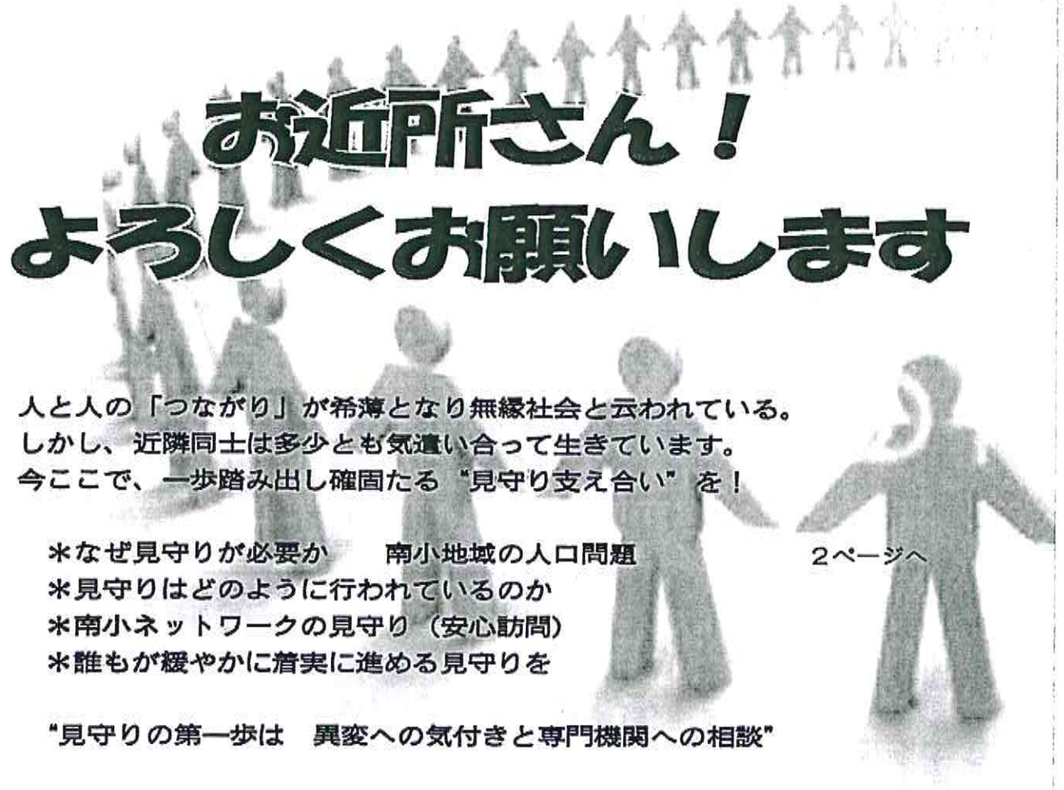
南　風　2016年11月　第18号

みなみかぜ

発　行　有秋南小学校区安心安全ネットワーク
問合せ　姉崎保健福祉センター　62-8601



日頃からさり気なく気遣い合い
困った時に遠慮なく頼める
「お近所さん」



お近所さん！
よろしくお願いします

人と人の「つながり」が希薄となり無縁社会と云われている。
しかし、近隣同士は多少とも気遣い合って生きています。
今ここで、一歩踏み出し確固たる“見守り支え合い”を！

＊なぜ見守りが必要か　南小地域の人口問題
＊見守りはどのように行われているのか
＊南小ネットワークの見守り（安心訪問）
＊誰もが緩やかに着実に進める見守りを

“見守りの第一歩は　異変への気付きと専門機関への相談”

2ページへ

見守りＶＲ募集中

見守り訪問をお願いしたい方、お手伝いをしてみたい方
　見守り・支え合いの楽しさを体験しよう！

南小ネットワーク

あなたも狙われている 電話詐欺にだまされないで！

息子や孫、市役所職員、金融機関職員を名乗る者から、「カバンを落した」とか「保険金の過払い金がある」など嘘の電話が多数かけられています。携帯電話をしながらＡＴＭを操作している人をみたら声掛けを。また電話de詐欺の可能性が高いことから警察に連絡しましょう。

平成28年11月1日　みなみかぜ　第18号





お互いさまです！



編集後記

熊本や鳥取大地震、桜島や阿蘇山の噴火そして6台風の日本上陸など今年も厳しい自然活動の中、やっと身辺に秋を感じるようになった。食欲の、読書の、スポーツの秋がやって来た。
　ＢＭＩや血糖値など健康管理を怠らず、読書やスポーツに時を忘れ、山の神やお近所さんとさり気なく気遣い合い、元気に楽しくこの良い季節を過ごしたい。

（Ｓ・Ｔ）

イベント案内　（11月～1月）

月	日	曜	行事内容
11	8	火	健康増進講座
11	11	金	南小交流学習（桜台ク）
11	12	土	避難所運営の体験訓練
11	13	日	市内一斉清掃デー
11	15	火	NW推進委員会
11	18	金	いちはら小域福祉NW連絡会議
11	19	土	有秋中バザー
11	22	火	安心訪問員認知症サポーター養成講座
12	7	水	南小マラソン納会
12	11	日	NWお楽しみクリスマスコンサート
12	20	火	NW推進委員会
1	9	月	有秋地区成人式
1	17	火	NW研修会（そなエリア東京）
1	24	火	安心訪問員会議

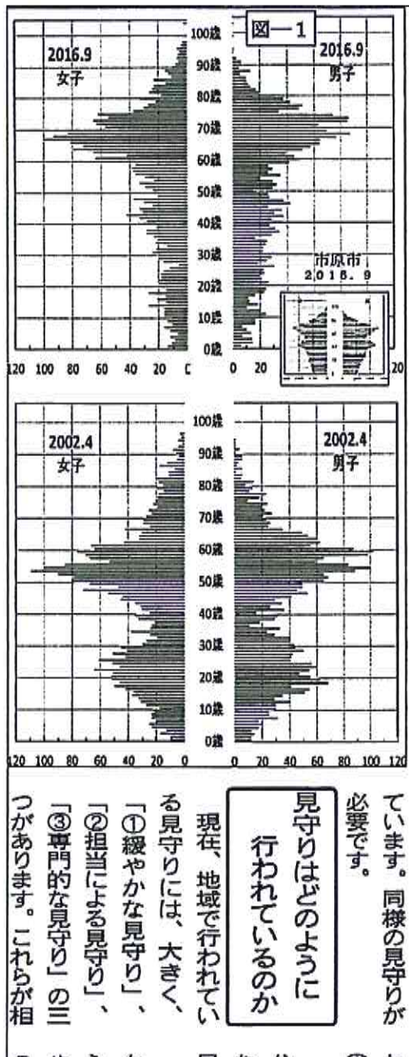
なぜ見守りが必要か　南小地域の人口問題

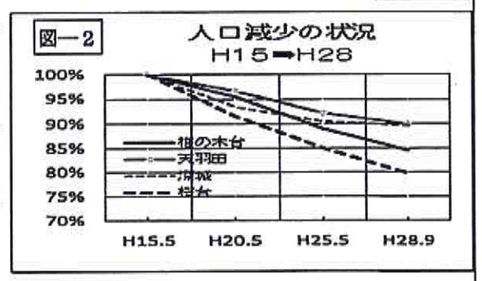
図―1から図―4は、南小地域の人々の年齢構成、人口変化率、人口構成比率及び高齢者世帯数の変化を示しています。

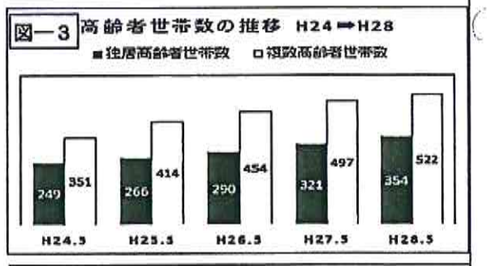
進行する人口減少、激減する現役世代、急増する孤独な高齢者などいずれの数値もその変動が激しいことが挙げられます。厳しい人口問題を抱える私たちは如何にこの現実と向き合うべきなのでしょうか。

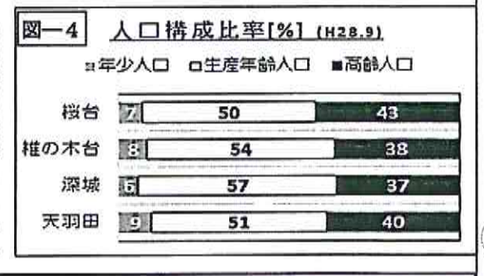
まず直感として、一人ひとりがこの現実を理解し、考え、早く行動に移すことではないでしょうか。そしてその英知を集約した地域の力で支え、異変に早期に気付き、命を守る仕組みである「見守り」は、高齢者が安心して在宅生活を継続していく上で大きな支えとなるでしょう。

また、高齢者だけではなく、地域には障害のある方、一人で家族の介護をされている方、生活に困窮している方など、何らかのサポートを必要とする方も暮らしています。同様の見守りが必要です。









見守りはどのように行われているのか

現在、地域で行われている見守りには、大きく、「①緩やかな見守り」、「②担当による見守り」、「③専門的な見守り」の三つがあります。これらが相互に機能を分担し合っており、見守りが必要な人に合わせて、様々な組合せで行われます。

①緩やかな見守り

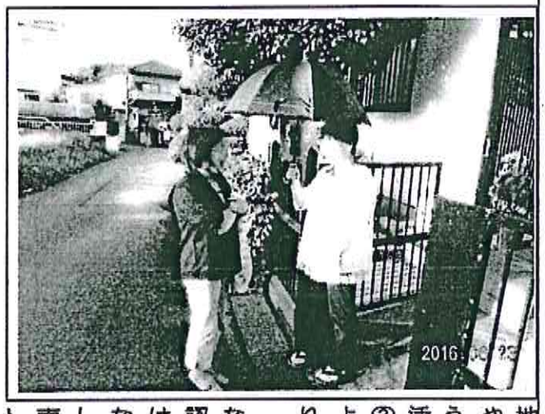
緩やかな見守りは、地域住民の皆さんや民間事業者など、地域の様々な方々が、日々の生活や業務の中で、「いつもと違う」「何かおかしい」と感じる人がいたら、地域包括支援センターや高齢者見守り相談窓口等の専門機関に相談するなど、地域で緩やかに行う見守り活動です。

②担当による見守り

定期的な安否確認や声掛けが必要な人に対しては、南小ネットワークの安心訪問員、民生・児童委員、老人クラブ、住民ボランティア等が担当と役割を決めて見守りを行います。

③専門的な見守り

地域包括支援センターや高齢者見守り相談窓口等の専門機関による定期的な見守りは、主に、対応拒否、家族による虐待、認知症など、困難な課題を抱えている高齢者等に対して、専門的な知識・技術をもって行われます。



また高齢者等の見守りネットワークの仕組みは、「①区市町村」「②地域包括支援センター・高齢者見守り相談窓口」「③地域住民」がつくる三つのネットワークによって構成されています。

南小ネットワークの見守り（安心訪問）

私たちの見守り（安心訪問活動）は、「①市原市のつくるネットワーク」に属し、先述の「②担当による見守り」を行っています。

地域の「見守り支え合い」がより早くより広くそして確かなものとして定着するよう自主的に参加した「訪問希望者」23人と「安心訪問員」29人の合わせて52人が活動しています。



夫々の「訪問希望者」に対応する「安心訪問員」を決め定期的に訪問してコミュニケーションを重ねながら相互信頼の絆を深めるようにしています。

誰もが緩やかに着実に進める見守りを

活動を始めて一年になりますが、今、最も気になることは、「見守りを必要とする人（見守り希望者）」がなぜ少ないのか、もっと多いのではないかと云う落ちこぼれへの心配です。

「見守る人」と「見守られる人」という監視の関係の感覚により敬遠されるのではないかと思うことがあります。このことを考えると、近隣同士のほどよい近所付き合いの中で、声を掛けたり気に掛けたりする緩やかな見守りによる助け合いが好ましいと考えます。

そのためにも、私たちはいま進めている「安心訪問による見守り活動」を推進する中で、見守りのネットワーク、会話の要領、情報の伝達、プライバシーの保護など安心の見守り活動について学び、地域の方々と共有して誰もが「見守り支え合い」に関われるよう努力しています。（S・T）

見守りの第一歩は異変への気付き　と　専門機関への相談

安心訪問の記　3

Aさんは一人二役
見守り訪問をお願いする人
見守り訪問をお手伝いをする人
誰もが二役

私が安心訪問するのは、200m～300m先にお住いのAさんである。これまで本当に隣り近所に居ながら名前を知る程度で話をしたことは無かった。昨年10月、訪問員の相棒と二人で始めてご自宅を訪問してからお付き合いは始まったのだが早１年になる。

第一印象は、真面目で聡明そして静かな好紳士である。少々取っ付き難いかとも感じたが、すぐにオープンで気配りのある優しい人だと気づいた。

Aさんは一人暮らしのお爺ちゃんだが、自身の健康や人付き合いを考えて健康体操教室や茶話会などに意識してに参加しているようだ。私たちの安心訪問に対しても、「有難う、いつもご心配かけます」と云って笑顔で受け入れ、また偶然に息子さんが帰郷して居られた節には紹介して呉れたり、この見守り訪問活動をよく理解して頂てるように思っていた。また他者への貢献意欲が感じられること、そしてなによりお元気であることから「安心訪問員」をしてみませんかと声掛けしたら、“やりましょう”と云うことで、Aさんは、“見守り訪問を受ける人”であり且つ“安心訪問を手伝うボランティア”となりました。

地域の助け合いとは、このように一人ひとりが自分の出来る範囲でお互いに助け・助けられながら生きることではないでしょうか。Aさんのこの姿は人口減少・少子高齢化時代の今、私たちのお手本です。私たちは「安心訪問」活動が、近隣近所の人と人を繋ぎ住み易い地域づくりの引き金になればと考えています。

なお、Aさんは今月8日にご子息の意向をうけ東京の老人養護施設に移られました。しかし24日には桜台の自宅に戻られ2泊し、“また戻ります”と云って東京へ行かれました。（笹野哲郎）